

潜走して後地小残りし三個の吉継が所據する事を執知軍のあつて
 乃月六義系が前小出方儀兼所もが前波九郎多満自據と率て出奔
 せしは是後事少のあらざるべし。俺們之人を率ひ追蒐て活捉
 せらん。こまを許容せしめあふやと實やうふ言出さるる義系こまを
 欺謀とせしむ。牧追蒐と敦圀地を兼所り之人偕小自家小帰て
 自云と率具し。若もかく城門と馳出。府中も吉継小追蒐心
 寧しと一抄小初と日小繕と近江小来り。大澤次郎左衛門小縁好のあま
 ばし是小怯憑て降参せ。木下追を會投事法始末を訴へる小本小察
 量るるも六疑を述してこまを調弁。又將信長小云出と四人の降参を
 許容せしむ。こま小よつて前波の恩を謝して帰休する。備する
 船倉義系の前波出入出奔して織田家小降参せ。緯と追つて仲

所るも一疎網をて過せりと後悔をこまも還らざるべし。彼此小心頼りて
 浅井長政先達するより加勢の事を謂ふもこまがこめ小延引せり。
 備する近江小出張せ。織田彈正忠信長ハ小言とをこまを乱妨する
 事目くひれも切らざる由へ久政長政堪ふ。越前へ使者をこま。救急をも
 とむる。駿馬の宛余自まの飛が如し。義系今ハ棄置せ。まが魁軍と
 して景鏡小五十の多士を引率るる直地小言小总陣へ浅井長
 政小静力を勤む。小言の之後こまを得く。微些心を寧ん下さるるも織田
 家の大軍款へて。城を固めて相争。然れど小秀吉ハ頼り信長へ云
 備し。虎御前山小城據を築き小言と直下小親りて。款の軍機を
 知らば浅井家自然小喪来りて滅亡遠るべし。と勅めたる。頼るるも
 宛小言の向面款中同様の場不ぬまが守るべき事。結ぶまじと等。困小し